

「一匹では生きられない。これは、虫でも人間でも植物でも、生き物全てに当てはまる。皆、「一人」では生きられない。それと同じで、森里川海も、それが

れが孤立しては成り立たない。海の水は、川から来ている。川は山から流れ出て、山には森がある。森は水を蓄え、川に流れ出る水の量を調節してくれる。その近くには里があり、生き物のすみかとなっている。この上うに、皆つながっている。そのつ

ながりを大切にしなければいけない。一つでも欠けてはいけない。この本を読んで、改めて思った。

今まで、森里川海は上手につながり、お互いに支え合っていた。しかし、今、そのつながりはこわれつつある。

例えば、海。私はこの夏、問題になっているプラゴミについて考えていた。その中で、海岸にだけプラゴミがあるか拾って調べたり見たか、あまりの多さに驚いた。私が行っ

た海は、きれいな海だが、よく見てみると、
 あちこちにプラゴミがうまっていた。そのプ
 ラゴミが、海に流れ出てしまったり、もう回収
 は難しい。魚や鳥が食べてしまったり、海
 から川へのぼる魚が、誤ってプラゴミを食べ
 て病気になる。のぼれなくなってしまった
 ら、川にいたその魚も、その魚を食べる生き
 物も減ってしまったり。他にも、水の汚染、埋め
 立てなど、問題は多くある。川、里では、異
 常気象により、ゲリラ豪雨、洪水などの被害

が出ている。森林では、火災が発生したり、お
 金のための違法採伐が行われている。今ま
 でつながって、しっかり機能してきたものが
 こわれ、おかしくなってきたものがある。
 昔の人々は、森林や山を守るために、ナシヨ
 ナルトラスト運動を起こし、私達に自然をの
 こしてくれた。私達の手で、その努力をこわ
 してしまったりはいけない。守っていかねば
 はいけない。

五年生の時に、山の学校という宿泊行事で、

森林整備体験をした。天然記念物の木の周りで、日光をさえぎってしまっている外来種の木のばっ採後の処理をした。人が勝手に持ってきた外来種。その外来種は悪くない。しかし、日本の自然を守るためには必要な事。処理する責任を、私達はしっかりと果たし、上手く森里川海がつかないか、豊かにしなければいけない。

私達は、大いなる自然の中で、恵みを受けて生きてきた。先程の学校行事の中で先生が、

「自然においやすませていただいている」とおっしゃっていた。みんながその気持ちになれば、むやみに開発を進めることはなくなるだろう。人や虫などの生き物は、森里川海がないと、生きていけない。人は便利な生活を求めてしまつと、自分達が自然とつながっていることをや、森里川海がそれをつながつているのを忘れてしまつ。今までずっと私達を支えてくれた自然とのつながりを大切にしたい。